

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の方法で評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成27年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成28年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者: 鶴見達洋

作成日: 平成29年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計): 8

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	6	1	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0

(1)課題

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価割合は97%で、昨年度の自己点検と同じ位の数値となった。ただ、評価項目のうち④「学校の理念等の学生・保護者等への周知」の項目に「やや不適切」との指摘があった。

④「学校の理念等の学生・保護者への周知」については、この2年間、課題とした項目で、学生や保護者に対し、学校長が入学式において学園の基本理念・教育目標・教育内容を説明し改善を図っている。また、昨年度は、毎日のクラス朝礼や授業の時間に、学生に対し、クラス担任や授業担当教員が、育成人材・入学目的等の教育内容を説明したり、保護者に郵送する成績証明書に教育内容のお知らせを同封することを実施してきた。新年度は、さらに、保護者に深く浸透を図っていくことが課題とする。

(2)今後の改善方策

④について、保護者に対しクラス担任が電話連絡を実施するときや、保護者・学生・クラス担任の三者面談を実施のときに、学園の教育理念・教育目標・入学目的・理想となる育成人材について話し理解してもらうことが今後の改善方策である。

(3)特記事項

学園の基本理念は「学園は、国民期待の教育目標を掲げ、人々を募集し、目標達成の教育を施し、就職を紹介することにより、社会に奉仕貢献する。」ことである。

また、学園の教育目標は

- ・早期大人化教育…「精神的・経済的な独立意識と社会やクラスの形成者意識の養成」
- ・学科の専門教育…「資格試験や公務員試験に合格する能力と就職に必要な能力の養成」である。

そして、この学園の基本理念や教育目標をもとに、社会の変化に対応した教育内容と育成人材を定めている。教育内容は、

- ・未来の職場で活躍できる「高度な専門能力」の養成
- ・入社2年目レベルの「職場の基礎能力」の養成
- ・憧れの業界人や公務員になるための「4段階の就職活動」
- ・本気モードで取り組む「キャンパスライフ」である。

学校の育成人材は、公務員・警察官・消防官として活躍できるようにするため理想の公務員像を研究し「真の公務員魂を持つ人物」と定める。学園としてはこの教育目標の達成に向けて、学生のカ・クラスのカ・教師のカの3者の能力を工夫活用し、健全な国民として学生を育てることを目指している。特に、特に、学生の志望する公務員の現場では、「職場の基礎能力」(自己管理能力、協調行動力、コミュニケーション能力など)が必要で、学園独自の検定試験制度を実施し、学生への浸透を図っている。

学園の教育理念等の周知に関しては、平成26年の開校以降、全職員に対して、学園運営計画書を配布し、毎月実施する職員全体朝礼で確認している。なお、学園運営計画書は毎年度見直しを行い、新しい社会のニーズに合わせた育成人材の輩出に向けた教育内容にしている。また、学生や保護者ばかりでなく、入学希望者や高校に対しても、学校案内書・ホームページや学校説明会により周知している。

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	6	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	4	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	6	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	6	0	0

(1) 課題

全体として「適切・ほぼ適切」と評価された。昨年度の自己点検では、評価項目のうち⑧「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」の項目で、「やや不適切」との評価意見があったが、今年度の自己点検では改善された。

学生管理(成績管理、出欠管理、就職管理、証明書発行など)や財務管理については情報システム化が図られているが、今年度より、新しい学生管理システムが導入され、職員研修を実施している。その新しいシステム運営がよりスムーズにできるように、職員に浸透させていくことが課題である。

(2) 今後の改善方策

⑧について、今年度、導入された新システムの職員への浸透をより図るため、各学期ごと、職員研修を実施するとともに、システム化により業務がより効率的に運営できるように業務を見直していく。

(3) 特記事項

学園の教育目標実現のため、学園学校運営計画書が毎年作成されている。内容は、学園の運営方針、具体的な事業計画である月別実施項目、学園全体の組織図及び月別実施項目の責任者であり、毎年3月に実施される職員全体会議において職員に対して説明がされる。月別実施項目の進捗度合いについては、毎月の職員朝礼で確認している。また、学園全体の組織図及び月別実施項目責任者の明示により、学園長・理事長・学校長・部長・科長などの指揮命令系統・意思決定機能は明確にされている。

職員の人事、給与に関する規程は「就業規則」に明示されている。関係法令の改正があれば、適時改正している。

学園や学校の運営計画を実行するには、教務能力の維持が不可欠である。個々の教職員の能力アップに向けて学校長による面談、教職員研修、教職員による授業聴講による評価、資格取得、新規科目担当を継続的に実施している。

業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備について、学園では多くの個人情報を扱うため、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を整備し適正に取り扱っている。そして、職員朝礼を通じて、個人情報保護を職員に呼び掛けている。また、学生に対しても、インターネット使用の際のSNSの適正利用について、クラス朝礼で指導している。

教育活動等に対する情報公開については、学校自己点検評価の実施と結果、公務員試験合格情報や遠足・ボランティア活動等のイベントに関して、学園ホームページ等を活用して継続的に公開している。また、学校財務情報についても、文部科学省のガイドライン等に従って適切に公開している。

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	7	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	7	0	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	6	0	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	4	2	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	1	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	4	3	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	5	1	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	6	0	0

(1)課題

全体としての「適切・ほぼ適切」の割合は93%であり、昨年度の自己点検と同じ位の数値となった。ただ、評価項目のうち4項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己点検では、⑤「関連分野の企業・関連施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し」と⑥「関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)の体系的な位置づけ」の項目で「やや不適切」との評価意見があったが、三重県下の市役所職員や静岡県内の大学の教員と連携をし、カリキュラムを作成、授業や実習を実施したため、今年度の自己点検では改善された。今後、さらに実践的な職業教育となるようにしていくことが課題である。

昨年度の自己点検で、⑧「職業教育に対する外部関係者からの評価の取り入れているか」についても「やや不適切」との評価意見があったが、三重県下の市役所に授業カリキュラムに対する意見を頂き始めた。今年度の自己点検でも「やや不適切」の評価意見があり、さらに外部評価を取り入れていくことが課題である。

昨年度の自己点検で、⑫「関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するマネジメントが行われているか」についても「やや不適切」との評価意見があったが、平成28年度、三重県下の市役所職員や静岡県下の大学の教員に「関連分野の授業を担当して頂いた。しかし、今年度の自己点検でも「やや不適切」の評価意見があり、関連分野である業界団体である市役所・消防署・自衛隊・法律実務の専門家等外部関係者と連携し、優れた教員確保が引き続き課題である。

昨年度の自己点検で、⑬「関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組み」について、関連分野の業界団体である警察本部・自衛隊等の外部関係者の説明会を学校で実施し知識を習得してきたが、教職員が先進的な知識・技能を取得できるようにすることが昨年度に引き続き課題である。

今年度の自己点検で⑪「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」について、「やや不適切」との評価意見があった。授業を行うことができる要件を備えた教員の採用が課題である。

(2)今後の改善方策

⑧について、外部の理事が参加する理事会・評議員会のほか、今年度は新たに、公務員、役所への書類申請をする法律の専門家、公務員で活躍している卒業生等で組織する学校関係者評価委員会を開催し、外部関係者からの評価を取り入れていく。

⑪について、公共職業安定所や学園のホームページで、一般教養や法律学を教える教職員の募集をし、学園内の採用選考を通じて優秀な人材を確保していく。

⑫について、学生が将来、就職先と考える公務員に、関連分野の実践的な職業教育をして頂けるよう、県庁・裁判所・消防署・自衛隊等に働きかけていきたい。また、名古屋校・岐阜校と連携し、名古屋校職員・岐阜校職員に津校の授業を依頼していく。

⑬⑭について、社会の変化に対応したカリキュラム改革に職員が対応できるように、平成28年度、メンタルヘルスマネジメント検定の学習をしたり、ジョブカード作成アドバイザー講習や求職者支援サポート講習に参加したが、今年度は、さらに関連分野における先端的な新知識の取得の研修会を実施したり、幅広い資格取得を目指すことにより時代に対応した業務力の向上をしていく。

(3)特記事項

教育理念や教育目標に沿った教育課程の編成について、これを編成し学則に教育課程表として明示されており、合わせて修業年限や授業時間数が規程されている。カリキュラムや使用教材は毎年見直し、シラバス(授業計画表)に基づいた授業を行っている。なお、学生にはタブレット型端末機を配布しており、タブレット型端末機を使用した授業も実施している。

現在、学科のカリキュラムについて、公務員・警察官・消防官に就職できるようにするために、一般知能・人文科学・社会科学・自然科学の科目のほか、公務員に就職してから必要な実務知識として、職場の基礎能力に加えて、パソコン・簿記・法律学・プレゼンテーション・ビジネスマナーの科目を体系的に編成している。

関連分野の企業や業界団体との連携も進めており、平成28年度は、官公庁説明会(税務署、三重県警察、自衛隊等)の参加、津消防署や津地方裁判所見学、自衛隊久居基地見学、司法書士による法律実務講義を実施した。また、平成29年度職業実践専門課程申請予定であり、昨年度、新たに選定された外部関係者で構成する教育課程編成委員会を実施した。この委員会の意見をもとにカリキュラムを編成している。

関連分野における実践的な職業教育として、平成28年度、三重県の市役所職員に「市の行政活動」について授業をして頂き、学生がグループを組んで「市の行政活動」、「街の活性化」「観光」「防災」「消防」「産業振興」などのテーマで研究し、タブレット型端末機を使用してプレゼンテーションをする実習を行った。また、静岡の大学教員に「地域の福祉行政」について授業をして頂き、学生がグループを組んで「高齢者」「障害者」「子育て」などのテーマについて研究し、タブレット型端末機を使用してプレゼンテーションをする実習を行った。さらに、税務職員を志望している学生に、津税務署において、2～3月の確定申告の時期に職場体験を実施した。

学校の教育目標を実現するために、学生には学生手帳を使用し自己管理するように指導している。具体的には、第1段階で「今、何のために、何をするのか?」とスローガンを掲げ自己考察し、第2段階で「自分流計画シート」を使用し2～6ヶ月間の目標や行動計画の作成する。そして、第3段階で手帳による毎日の自己管理を行っている。

授業評価の実施については、教職員間の授業聴講や年3回授業研修会を実施し授業の点検・評価を行い、長所と短所の項目を伝え、講義力の向上を図っている。また、学生による授業評価アンケートの導入も検討していく。

進級・卒業の基準については、学生に配布している「学生便覧」に進級・卒業基準を明示し、厳密に審査判定している。

教職員の能力開発については、時代に対応した業務力をつけるため、資格取得研修を実施している。特に、AIやグローバル時代を反映し、IT資格や英語資格の取得を推進している。また、学園長主催の年4回の人間学読書会や自己研鑽研修制度を通じて教職員の品格保持を図っている。

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	4	1	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	6	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	1	5	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0

(1) 課題

全体としての「適切・ほぼ適切」の割合は85%で、昨年度の自己点検よりも改善している。評価項目のうち2項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己点検で、①「就職率の向上」について「やや不適切」との評価意見があったが、平成28年度、卒業生に占める公務員(税務職員・消防官・警察官・県庁職員等に就職)や民間企業(郵便局・小売業等に就職)の就職内定率は84%、残りの多くは公務員試験再受験で再入学や編入学なり、昨年度より改善され、学生にとって満足のある進路決定となった。今年度もさらに、公務員や民間企業の就職率を向上させることが課題である。

昨年度の自己点検で、④「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」について「やや不適切」との評価意見があったが、今年度の自己点検でも「やや不適切」が多く課題とされた。昨年度は、平成28年3月卒業生の就職状況を専門課程総合案内書や学校の掲示版に掲載し、学生や入学希望者へ進路選択情報として提供した。また、役所に勤務した卒業生を学校に招き、役所の様子や仕事のやりがいを授業として話してもらう機会を設けた。今後、学校と卒業生の連携をより密にし、卒業生の活躍状況を把握することが課題である。

昨年度の自己点検で、③「退学率の低減」について「やや不適切」との評価意見があったが、平成28年度、クラス担任や授業担当者が学生個々の状況を把握し、悩みや進路について可能な限り、面接を実施した。また、7～8月期に、希望する学生について、クラス担任・保護者・学生の三者面談を実施した。これらの試みが功を奏し、退学率の低減に繋がった。今年度も、継続して、退学者の低減を図っていく。

(2) 今後の改善方策

①について、学生が多くの公務員試験の受験ができるように、全国の公務員試験情報を発信していく。また、公務員試験受験から民間企業進路変更者に対しては、就職サポート室の支援を受け、クラス担任と学生の連携で民間企業就職実現を図っていく。

④については、学校と卒業生との連携を密にし、卒業生の職場における活躍状況を専門課程総合案内書に掲載したり、役所に一定期間勤務した卒業生を「業界で活躍する先輩」として学校に招き、役所の様子や仕事のやりがいを授業として話してもらう機会を、昨年度より増やしていく。また、卒業生に対して、アンケートを実施して卒業生の活躍状況を把握していく。

(3) 特記事項

公務員への就職指導については、授業として公務員・警察官・消防官試験のガイダンスや公務員OB・OG講演会を実施したり、クラス担任と学生との間で公務員試験受験相談、自己PR・志望動機の内容を含めた履歴書の書き方、個別や集団面接対策、集団討論対策など十分な就職対策を実施している。なお、職員の学生に対する履歴書・面接・集団討論指導力を向上するため、職員研修会を実施した。

公務員試験受験から民間企業進路変更者対象の民間企業に対する就職指導については、学校に寄せられる民間企業求人情報をもとに、就職サポート室担当者とクラス担任が学生の進路相談を行っている。なお、学校に寄せられる民間企業求人情報は就職サポート室で一元管理し、ファイリングした求人情報はクラス教室で自由に閲覧できるほか、学内ネットワーク上で検索閲覧が可能である。

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	2	2	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	5	1	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	0	7	1	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	7	0	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	2	5	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0

(1) 課題

全体としての「適切・ほぼ適切」の割合は88%であり、昨年度の自己点検よりも改善している。評価項目のうち4項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己点検で、④「学生の健康管理を担う組織体制」について「やや不適切」との指摘があったが、今年度の自己点検でも「やや不適切」と指摘された。編成28年度、遅刻日数や欠席日数が規程数を超えた学生や自宅外通学している学生には、クラス担任から保護者や学生に連絡をしているが、学校内で体調不良の場合の対処に課題が残る。

昨年度の自己点検で、⑤「課外活動に対する支援体制の整備」について「やや不適切」と指摘があったが、今年度の自己点検でも「やや不適切」と指摘された。今年度、学生が本気モードで楽しむ「キャンパスライフ」が送れるように、クラブ活動など課外活動の実施が課題である。

昨年度の自己点検で、⑧「卒業生への支援体制」について「やや不適切」との指摘があったが、今年度の自己点検でも「やや不適切」と多数の指摘を受けた。卒業生が学校を身近に、そして、母校と感じてもらえるようにしていくことが課題である。

今年度の自己点検で、①「進路・就職に対する支援体制は整備されているか」について「やや不適切」との指摘があった。公務員や民間企業就職指導は、クラス担任中心で行われているが、就職サポート室との連携強化が課題である。

(2) 今後の改善方策

①について、より学生の満足のいく進路・就職相談を実施するために、就職サポート室職員との相談できる時間を増やしていくことが改善方策である。

④について、遅刻日数や欠席日数が規程数を超えた学生には、クラス担任から保護者に連絡をしている。さらに、自宅外通学している学生について、遅刻や欠席の都度、クラス担任から学生に連絡を入れ、健康管理や生活習慣に気を配ることを継続していく。また、学校内で、学生が体調不良となり保健室の利用となった場合、職員が適切な対応ができるように簡単な保健知識も身に着けていく。

⑤について、通常のクラスとは別の学科や学年を超えた交流の場として、課外活動としてのクラブ活動の設置とそのクラブ活動を担当できる人員確保を検討していく。

⑧について、津校は、平成29年3月に3回目の卒業生を輩出したが、卒業生と学校との連携を強めるため、同窓会組織の設置を検討していく。

(3) 特記事項

学生相談に関する体制について、クラス担任制を採用しており、担任と学生の信頼関係に基づき学習相談、進路相談、就職相談が行われている。また、学科責任者や学校長もクラス担任をサポートし、学校をあげた指導体制を構築している。なお、授業の内容について、授業後、復習や問題演習している学生が多く、クラス担任や授業担当が教室において質問対応にあたっている。

学生に対する経済的な支援体制について、一定の資格や経歴を有する者に学費の一部を減免する特別奨学生制度、低利の教育資金融資制度、学費納入方法として一括納入に加えて分割納入できる制度、自宅外通学者に一人暮らし支援制度がある。

学生の健康管理について、年1回の健康診断を実施するとともに、保健室を設置している。

課外活動について、学生の満足度を高め協調行動力を養成するため、長野県管平研修旅行、遠足、スポーツフェスティバル、バレーボール大会、救命講習、卒業研修旅行、自動車運転免許合宿(任意)を実施している。さらに、今年度は、自衛隊体験入隊も実施する予定である。

保護者との連携について、年6回の学業成績報告、進路決定のための相談会、学生の状況を見つめながら電話連絡、保護者・学生・クラス担任の三者面談を実施している。

高校との連携について、三重県内の高校からの公務員試験ガイダンスや公務員試験講習会の依頼を積極的に対応している。また、県立松阪高校と「高等学校と専門学校の連携に関する協定」を結び、高校の授業に職員を派遣している。

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	5	2	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0

(1)課題

全体としての「適切・ほぼ適切」の割合は91%であり、昨年度の自己採点と同じ位の数値となった。評価項目のうち1項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己点検でも、②「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制の整備」について「やや不適切」との指摘があったが、今年度の自己点検でも「やや不適切」と指摘された。昨年度は、税務職員志望の学生に、津税務署のアルバイトとして職場体験を実施した。今後、さらに、職場体験を拡充していくことが課題である。また、海外研修については、学生に自主的な海外旅行を支援するため、海外旅行の旅行代金の一部を補助する制度である「オーバーシーズプログラム」を推進し学生に周知した。しかし、学生の海外旅行に対する魅力向上に繋がったが、海外旅行をするまでにはなっていない。今年度は、さらに学生が海外行動に魅力を感じる企画の実施が課題である。

(2)今後の改善方策

②のインターンシップについては、今年度、防衛や災害救助を任とする自衛隊の生活体験を実施し、教育体制を整備していく。また、学生の海外旅行に対する魅力を向上できるよう、基本的な海外旅行の知識をつける取り組みに加味して、学生手帳に掲載されている基本英会話や中国語・韓国語の簡単な会話の練習を、クラス朝礼で実施していく。

(3)特記事項

施設・設備については、専修学校設置基準に照らして講義室・トレーニング室(トレーニングジム・卓球スペース)・PC実習室とも十分な面積と必要数を満たしている。廊下、ロビーも一定の広さがあり、椅子とテーブルを設置し当該場所での学習も可能である。自習スペースも確保しており、学生が学習する環境は整えられている。教室にはパワーポイントやiPad画像を映すためのプロジェクターが備わり、校内どこからでもインターネットに接続可能となっている。これらの情報機器は学生のiPadを使用したプレゼンテーション力養成にも貢献している。また、保健室も整備されており、一定の医薬品は常備している。図書室は整備されていないが、各教室や廊下に掲示板を備え付け、ロビーに新聞棚を設け、学生に情報を提供している。なお、教員室と事務室については共通の部屋を使用しているが、個人情報保護の観点から関係者以外の入室はとも一定の手続きを取らないと入室できないようにしている。

インターンシップについて、公務員希望の学生の役所へのインターンシップは難しいところがあるが、税務署の職場体験以外にも、三重県警察本部の「若桎サポーター」「少年非行防止」のボランティア活動にも参加している。

防災について、消防計画・学校安全計画は整備され、防火管理者を定めて安全に努めている。また、定期的に、学生手帳にある地震時対応マニュアルを確認し、防災の日には避難訓練を実施している。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	3	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0

(1)課題

全体として「適切・ほぼ適切」の割合は、昨年度の自己点検と同じ100%である。

(2)今後の改善方策

全項目「適切・ほぼ適切」の評価となっているが、②「教育成果は正確に伝えられているか」について、昨年度に引き続き、速やかに学校のホームページに掲載したり、出身高校等へ伝え、募集活動に結び付けていく。

(3)特記事項

学生募集活動については、学生募集のためのパンフレットを作成し、学校の基本情報、学科ごとのカリキュラム、公務員・警察官・消防官試験合格実績、卒業生の活躍状況、学内イベントなどの情報、学校説明会や体験入学会の開催日程、学費や入学手続き方法の募集要項が掲載している。出願手続きについて、出願期間が定められており、出願後遅滞なく書類選考及び必要に応じ学校長による面接を実施している。

学納金については、入学金のほか授業料・維持費・研修教材費で構成され、資格試験の受験料等を除き追加徴収することはなく、妥当な金額と考える。また、学生に対する学納金支援制度として、一定の資格や経歴を有する者に学費の一部を減免する特別奨学生制度のほか、兄弟姉妹等特別奨学生制度、日本学生支援機構奨学金制度、自宅外通学者に対する一人暮らし支援制度が運用されている。

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0

(1)課題

全体として「適切・ほぼ適切」の割合は、昨年度の自己点検と同じ100%である。
専門課程入学者は一定数おり、学校の財務基盤は安定している。

(2)今後の改善方策

全項目「適切・ほぼ適切」の評価となっているが、中長期的な学校の財務基盤安定のため、学生募集人数増加を図る必要があり、高校訪問はじめ積極的な募集活動を今後も実施していく。

(3)特記事項

財務について、入学後に寄付金や学債をお願いすることは一切なく、学園は借入金のない健全な財務状態となっている。また、理事会・評議員会において、予算・収支計画の立案及び承認が適切に行われ、財務に関する会計監査及び税務監査も適切に行われている。なお、物品の購入について、見積書の取得や稟議書の作成を徹底している。

財務情報公開については、「財産目録等の閲覧について」の規定を整備し、利害関係人に閲覧できるようにしている。

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	8	0	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	6	2	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	5	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	2	2	0

(1)課題

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価割合は93%であり、昨年度の自己採点よりも改善した。評価項目のうち1項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己採点で、④「自己評価結果を公開」について「やや不適切」と指摘されたが、今年度の自己点検でも「やや不適切」と指摘された。昨年度、自己点検・自己評価で指摘された問題点は、年度末の職員会議で情報を共有し改善を図っているが、まだまだ不十分であり、内容の充実や機会を増やすことが課題である。

(2)今後の改善方策

④について、今後も自己点検・自己評価を継続的に実施し、「やや不適切・不適切」と評価された問題点は、年3回、学期末に開催される職員会議で各職員共有し改善をしていく。また、自己点検・自己点検の結果は総括して学校ホームページで公開しているが、さらに今年度は新たに、公務員や卒業生等外部の関係者で組織する学校関係者評価委員会に報告し、関係者による評価を受けていく。

(3)特記事項

各種法令や専修学校設置基準を遵守し、専任教員の配置・設備施設・授業日数・授業時間含め適正な学校運営を実施している。

個人情報保護について、学校は学生の個人情報を多く扱うため、個人情報保護法に基づく学園個人情報保護規則を制定し、個人情報の管理には最大限の注意を払っている。

自己点検・自己評価は、学校に所属する職員が3月末に自己評価を実施しその結果を取りまとめ、学校ホームページにおいて平成27年5月より毎年度公開している。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	6	0	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	7	1	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	4	2	0

(1) 課題

全体としての「適切・ほぼ適切」の評価割合は91%であり、昨年度の自己点検よりも上昇した。評価項目のうち1項目に「やや不適切」との指摘があった。

昨年度の自己点検で、①「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献」について「やや不適切」と指摘されたが、学生と地域の住民の交流など地域と共存する学校としての社会貢献・地域貢献として、町内会等に校舎の貸出をした結果改善してきた。今後も、地域の住民の災害時における校舎利用が考えられるため、防災計画と合わせて配慮し、できる範囲内での協力を行っていく。

昨年度の自己点検で、②「学生のボランティア活動の奨励・支援」についても「やや不適切」との指摘がされたが、平成28年度は、学生に対して情報提供ばかりでなく、積極的に参加を呼び掛けた結果、伊勢志摩先進国首脳サミットのイベントとして四日市市で開催された「市民の伊勢志摩サミット」や三重県警察本部の若樫サポーター「少年非行防止」のボランティア活動に大勢の学生が参加し、改善してきている。今後も、積極的な参加の呼び掛けを継続していく。

③「地域社会に対する公開講座・教育訓練受託」について、今年度の自己点検で「やや不適切」と指摘された。学校内における公開講座の実施が課題である。

(2) 今後の改善方策

③について、昨年度、学校の施設を、津駅前の利便性を活かして、初心者対象の名言の説明会である「人間学読書会（無料公開講座）」を年5回開催したが、地域の住民の参加はなかった。地域の住民へのお知らせの方法も再検討していく。また、高校入学試験会場や大学入学試験会場としての貸出も積極的に進めていく。

(3) 特記事項

ボランティア活動への参加について、将来、公務員を志望する学生に対し、「人のために尽くす公共心」を育成することは、「真の公務員魂を持つ人物」という育成人材の教育に重要である。今年度は、新たに、多くの学生が三重県伊勢市で開催される「お伊勢さんお菓子博2017」にボランティアで参加する。